

ライチ便り No. 61

～福岡広州ライチ倶楽部会報 2025 年 5 月号～

<http://lychee-club.jp/>

梅につづき、少し遅れた桜も慌ただしく散り、つつじ、藤と見惚れているうちに、木々の新芽も緑濃くなって、早くも紫陽花の季節になりました。そろそろ梅雨入りですね。記事の内容を思案しているうちに、ライチ便りの発行がすっかり遅れてしまいました。先日理事会が開かれて、今年度から新たに「中国茶教室」を始めることにもなりましたので、俄然元気が出てきました。気合を入れなおして、ライチ便り第 61 号をお届けします！

広州交易会で人型ロボットが注目のまことに

1957 年に始まって以来毎年 4 月と 10 月に開かれている大規模な貿易商談会、広州交易会は、この春 137 回目を迎えました。その規模たるや、前回 136 回目では、総面積 150 万平米、総出展社数 32,908 社(うち海外からは 658 社)74,136 ブースで、214 の国・地域から 25.3 万名の海外バイヤー(中国国内除く)が来場…という中国最大のものです。

今回はこの会場で人型ロボットが注目を集めていたとのニュース記事が、4 月 16 日の西日本新聞朝刊に出ていました。そこで早速、ウィチャットに開設されている「福岡-広州ライチ・チャット」を通



じて、114 人のグループ参加者に「会場で写真を撮った人はいませんか？」と問いかけたところ、すぐにいくつもの反応があり、たくさんの写真をいただきました。グループチャットメンバーの一人、羅怡さんの勤務する小朋汽車という会社では、この種のロボットの他に自動走行の乗用車や人が乗れるドローンなども製造しており、「26 年からは、車に搭載する飛行機を量産す

る予定」だとか。どんなものなのか想像が付きませんが、なんだかすごいことになっているようです。

その後、北京ではハーフマラソン大会に人型ロボットが出場したとのニュースもありました。アメリカ大統領が目の敵にしている生成 AI「ディープシーク」も、安価ですごく便利だと、使っている人からは大好評のようですし、中国の先端科学技術は、今や人々の生活に急速に浸透しているようです。

母の日の日本料理

右の 2 枚の写真は、5 月の母の日に、広州の友人がご子息からプレゼントされた日本料理だそうです。サラダの花束と刺身のオードブル。こんな日本料理、日本にもあるのでしょうか？幸せそうですね。



ライチ倶楽部の活動をさらに力強く

コロナ禍以来、ライチ倶楽部の活動は勢いをそがれて、いまだ十分に回復できていない感がぬぐえません。ライチ便りにも何を記事にすればいいのか、悩ましく思っていました。そこで思いついたのが、昨年広州を訪れた際にみつけた「大話廣州」という上下 2 冊の本です。カラフルな挿絵入りで、広州の歴史、地理、風俗、習慣、民間信仰などが、簡潔に分かりやすく紹介されており、「掌上の博物館」といった趣です。これをうまく利用して、シリーズで広州を多角的に眺めていければ…。

幸い若返った事務局長の力で広州側とつながっている SNS も存分に活用しながら、これから先もライチ倶楽部の皆さまと、福岡と広州の民間交流を続け、友情をはぐくみ、発展させていきたいものです。

6 月 8 日には、上川端商店街にこのほど新しく開店した「蜀彩菜」という四川料理の店で総会が開かれます。さらに 6 月 13 日からは「中国茶教室」も始まります。沈滞ムードを振り払って、元気にライチ倶楽部の活動を続けていきましょう。

***当倶楽部のHPと各種 SNS を開設しています。是非アクセスしてみてください。**

***会費未納の方は、今年度会費の振込をお願いします。個人:3000 円 団体:一口 10000 円**

***会報を送付するのは電子メールが便利です。メールアドレスをお持ちの方は是非お知らせください。**

